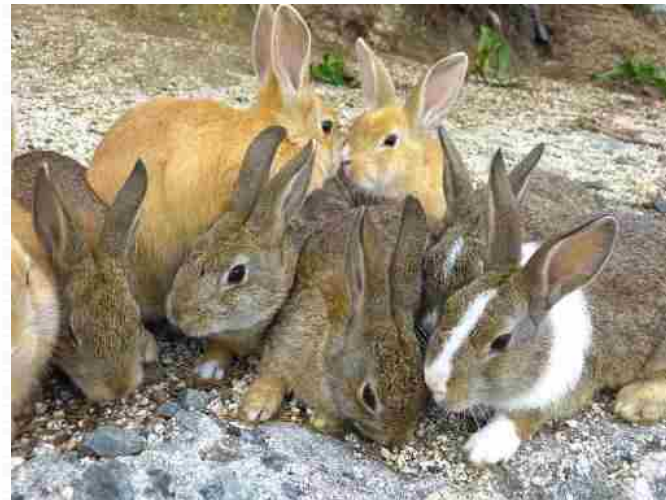


大久野島の現状把握調査の結果報告



中国四国地方環境事務所

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

大久野島に何が起きているのか？



平成30年度に**大久野島の現状把握調査**を実施

1. カイウサギの個体数調査
2. カイウサギの健康状態調査
3. 感染症媒介動物の生息状況調査
4. 専門家・関係者へのヒアリング
5. 来島者アンケート

1. カイウサギの個体数調査

調査時期: 平成30年 6月～7月に計4回実施
(①6/23, ②6/25, ③7/8, ④7/13)

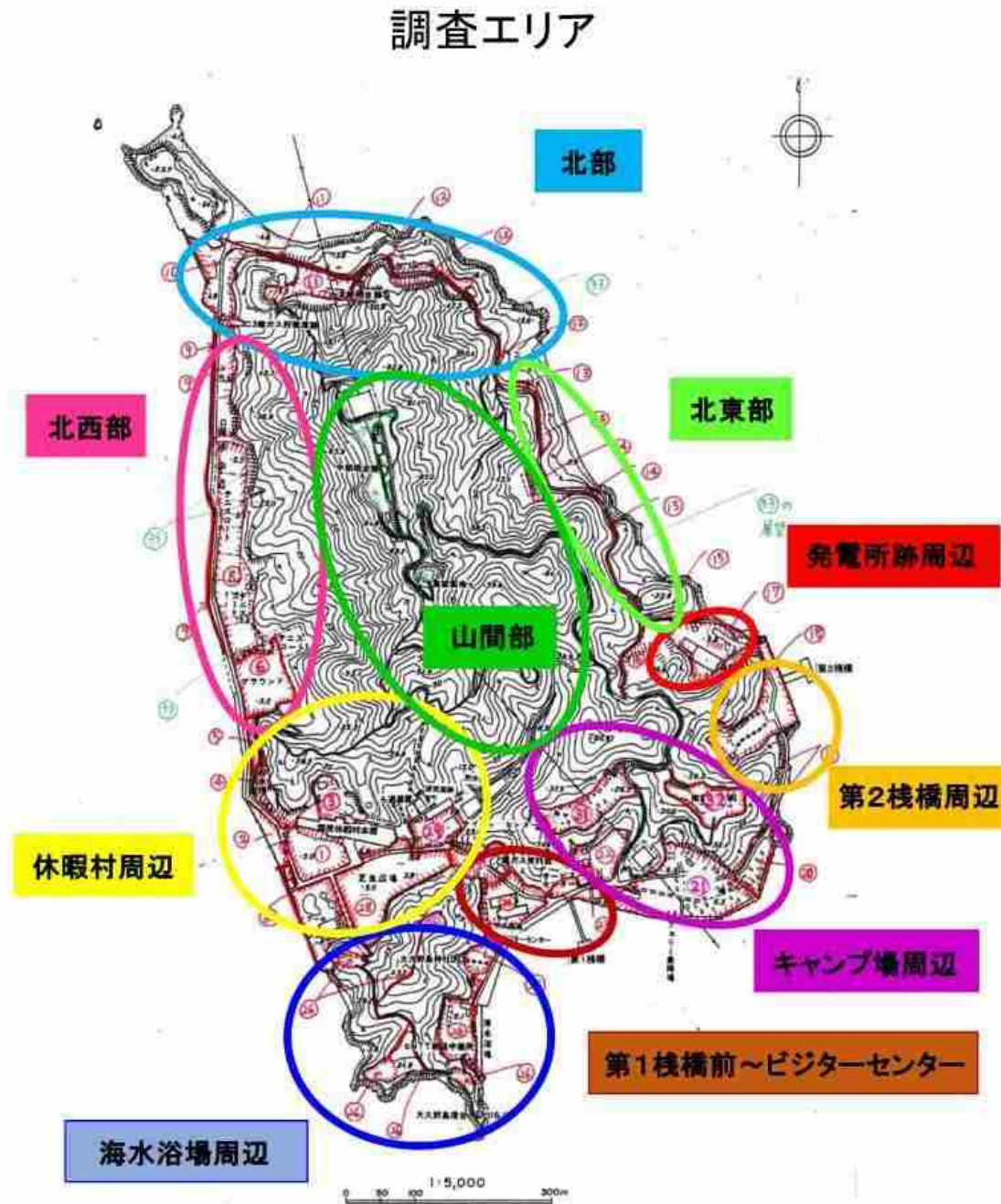
調査場所: 島内全域を対象

調査方法: 島内の主要な歩道を踏査しながら、目視で
カウント

調査実施者: 大久野島ビジターセンター(1名)

1. カイウサギの個体数調査

調査エリア



1. カイウサギの個体数調査

調査結果

調査地	6/23	6/25	7/8	7/13
休暇村周辺	300	256	257	254
北西部	68	80	57	69
北部	43	29	32	26
北東部	49	45	62	47
発電所跡周辺	37	44	29	34
第2棧橋周辺	115	146	137	162
キャンプ場周辺	121	147	109	164
第1棧橋前～ビジターセンター	65	78	101	82
海水浴場周辺	38	57	39	31
山間部	54	39	56	37
合計	890	921	879	906

目視で、**最大921羽**を確認。確認できなかった個体を含めると、1000羽以上生息している可能性

2. カイウサギの健康状態調査



調査時期:平成30年 10月9日(火)～11日(木)

調査場所:ビジターセンターから休暇村周辺

調査方法:ウサギを捕獲して性別・体重・体長・外見の異常などを観察・記録。血液及び鼻腔から標本を採取。
捕獲したウサギは、診察、標本採取の終了後に捕獲場所周辺で放獣。

調査実施者:山口大学共同獣医学部

協力:ウサギの臨床獣医師(6名)＋動物看護師

調査結果① 外見の異常

捕獲数：60個体 ※外見上、気になる状態が見られるウサギを優先して捕獲

このうち、外見の異常が認められたのは14個体

捕獲場所	捕獲数	オス	メス	性不明	外見の異常 個体数	割合 (%)
休暇村周辺	29	15	13	1	9	31
屋外プール周辺	12	6	6	0	3	25
旧ネイチャー センター周辺	12	5	6	1	1	8
ビジターセン ター周辺	7	4	3	0	1	14
合計	60	30	28	2	14	23

2. カイウサギの健康状態調査

捕獲したウサギ(外見の異常の状態)



左顔面脱毛



左結膜炎、角膜白濁

鼻	7	鼻汁、鼻びらん、鼻粘膜痂皮
耳	1	切り傷
目	5	目やに、結膜炎、角膜白濁、眼瞼炎症・裂傷
肛門	1	肛門粘膜びらん
陰部	1	陰部痂皮
顔面	1	脱毛



鼻びらん



陰部痂皮

調査結果② 各種感染症ウイルスの保有状況

ウサギの血清から各種ウイルスに対する抗体を検出

感染症	媒介	抗体検出数	検出率(%)
SFTSウイルス (重症熱性血小板減少症候群)	マダニ	0	0
Getahウイルス	蚊	0	0
E型肝炎ウイルス		20	33.3
ダニ媒介脳炎ウイルス	ダニ	0	0
日本脳炎ウイルス	蚊	4	6.7
OZウイルス	マダニ	0	0
トレポネーマ (ウサギ梅毒)			
RPPテスト		39 / 53	73.6
TPHAテスト		42 / 55	76.4

調査結果③ 各種細菌の保有状況

鼻腔スワブから検出された主な細菌種

細菌種		検出個体数	検出率 (%)
黄色ブドウ球菌	<i>Staphylococcus aureus</i>	13	21.7
パストツレラ菌	<i>Pasteurella multocida</i>	10	16.7
肺炎桿菌	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	1	1.7
プロテウス菌	<i>Proteus mirabilis</i>	4	6.7
セレウス菌	<i>Bacillus cereus</i>	1	1.7

ウサギの保有するウイルス・細菌種 一まとめー

◎E型肝炎ウイルス

捕獲個体の約33%から検出。ウサギ間で蔓延しているウイルスではあるが、**人での発症**が報告されている(Abravanel et al., 2017)。

◎トレポネーマ(ウサギ梅毒)

捕獲個体の約74%から検出。皮膚や膣粘膜などの病変の原因になっているおそれ。ウサギ特有のもので**人獣共通感染症ではない**。ウサギ間の接触で広がることから、**密度の上昇が蔓延を助長する可能性**がある。

◎パスツレラ菌

捕獲個体の約17%から検出。**人獣共通感染症**で、接触により感染するリスクがある。ウサギの主な症状としてくしゃみ、鼻水などがある。

3. 感染症媒介動物の生息状況調査

調査時期:平成30年 10月9日(火)～11日(木)

調査場所:島内全域(特に第2棧橋から休暇村周辺)

調査対象種:マダニ、ネズミ、蚊

調査実施者:山口大学共同獣医学部

3. 感染症媒介動物の生息状況調査

マダニ

- 調査方法：旗振り法を島内各所で実施
- 調査結果：マダニの捕集なし
(捕獲したウサギからもマダニの確認なし)

ネズミ

- 調査方法：ネズミトラップ（シャーマントラップ）を75個
設置（150Trap-Night）、餌はピーナッツ
- 調査結果：ネズミの捕獲なし（目視ではクマネズミ属を確認）

蚊

- 調査方法：CDCドライアイストラップ、スウィーピング法
- 調査結果：ヒトスジシマカ、オオクロヤブカ、アカイエカ、
コガタアカイエカ、シロハシイエカ、キンパラナ
ガハシカ

4. 専門家・関係者へのヒアリング

① 専門家ヒアリング

- ヒアリング対象：感染症の専門家、動物園の飼育者、獣医師
- 目的：人獣共通感染症等のリスクの把握、カイウサギの生態、繁殖生理等の把握

② 関係者ヒアリング

- ヒアリング対象：大久野島の関係者
- 目的：現状の課題の把握

5. 来島者アンケート

調査時期:平成31年 2月～3月上旬(聴き取りは休日)

調査場所:第2棧橋周辺での聴き取り、ビジターセンターへの設置

調査対象者:大久野島来島者

目的:大久野島の来島目的、感想、ウサギへのエサやりに対する意識等を把握

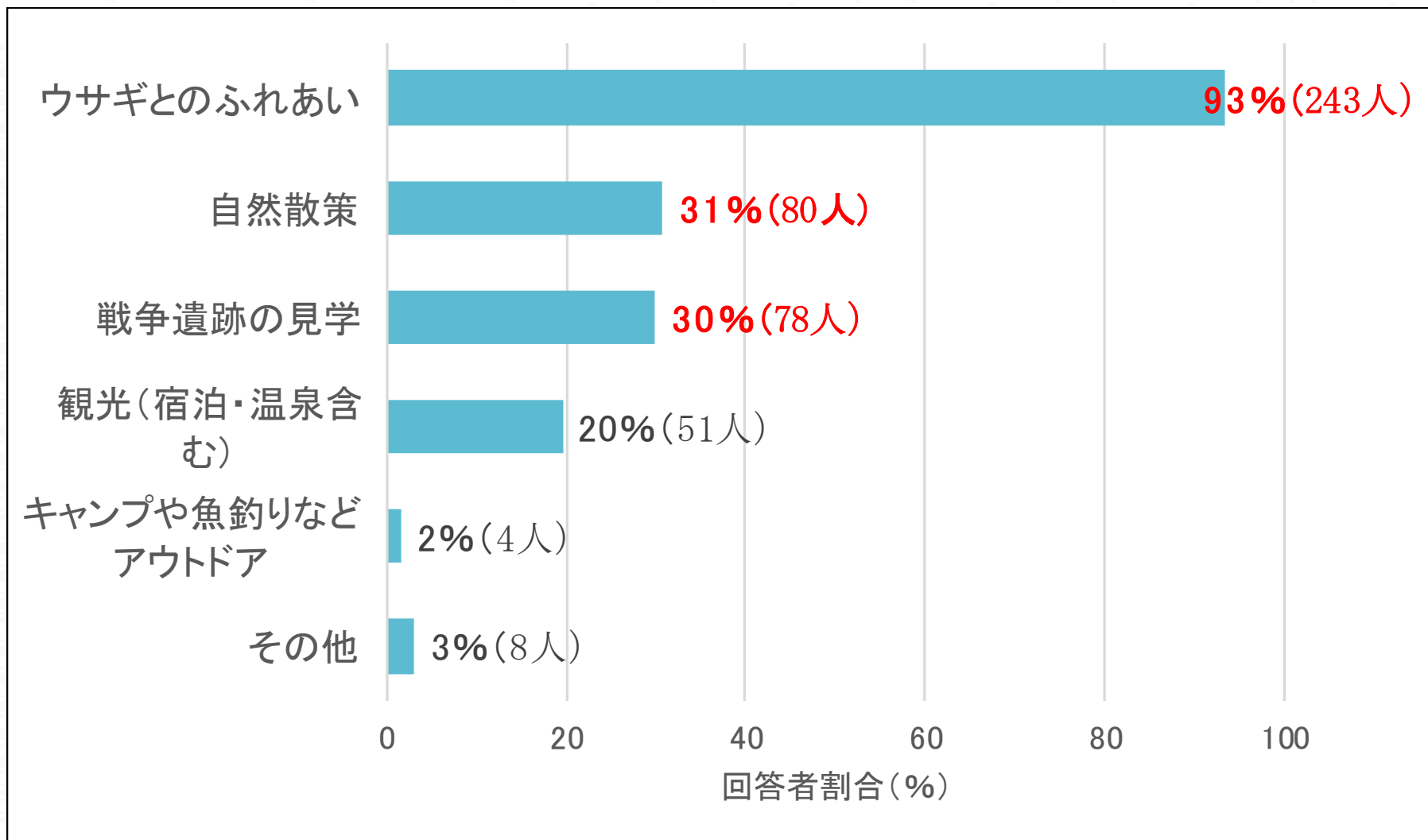
調査方法:選択形式10問、自由記述形式1問

回答件数:260件→聴き取り(206件)、ビジターセンター(54件)

5. 来島者アンケート

来島目的

(複数回答可：3事項まで)

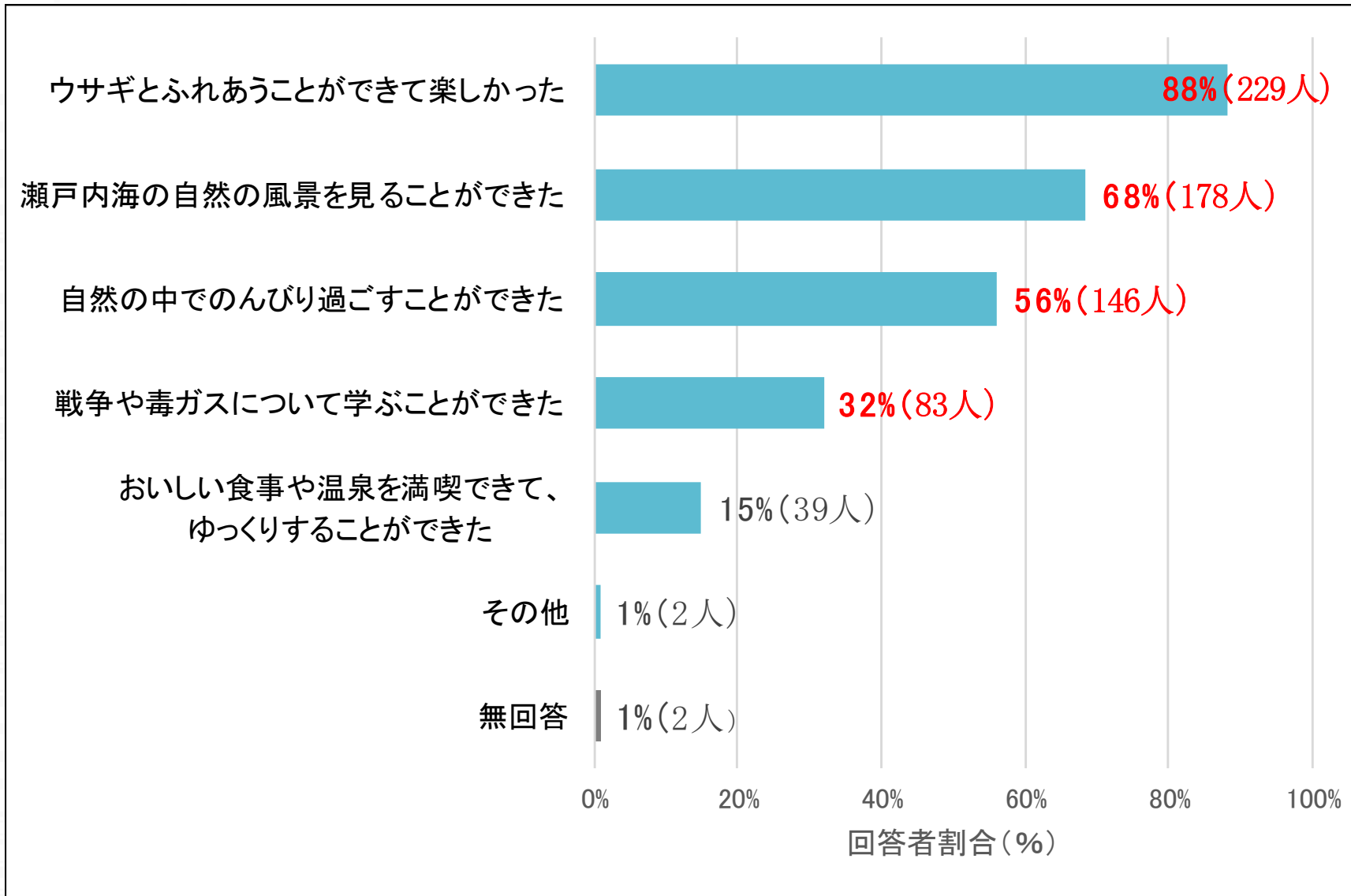


5. 来島者アンケート

来島した感想

◆ 好感を持ったこと

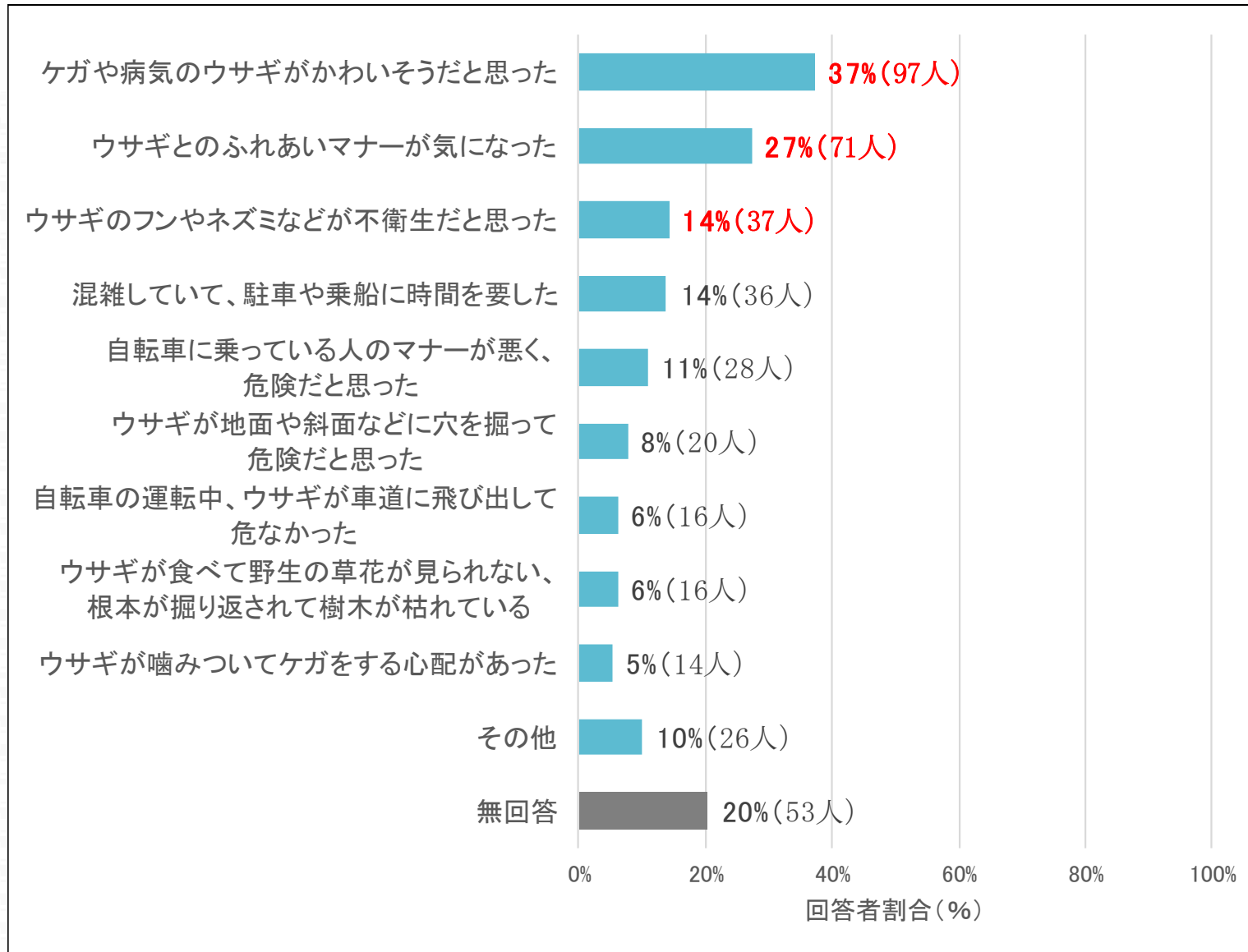
(複数回答可：3事項まで)



5. 来島者アンケート

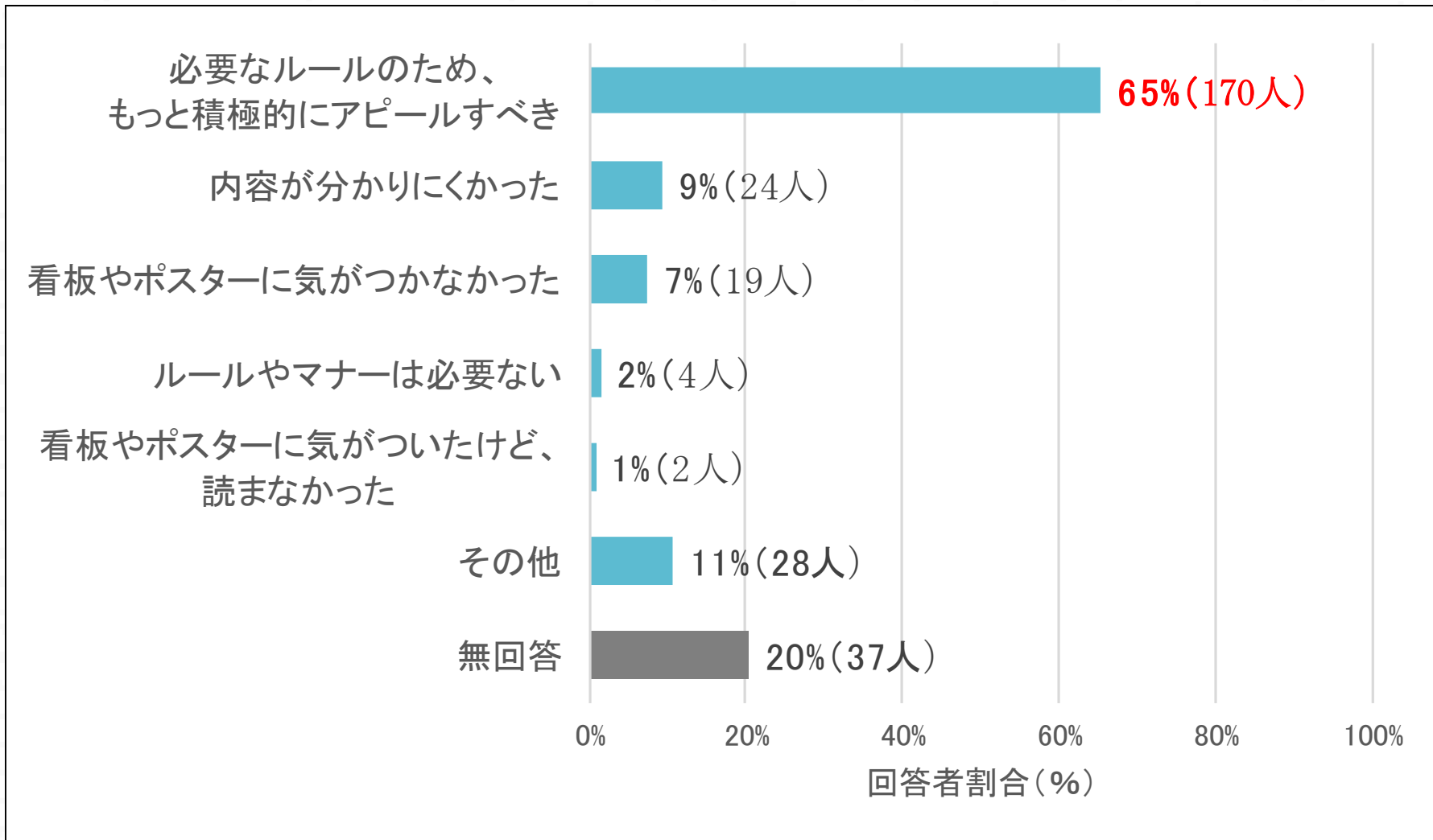
来島した感想 ◆ 気になったこと

(複数回答可：3事項まで)



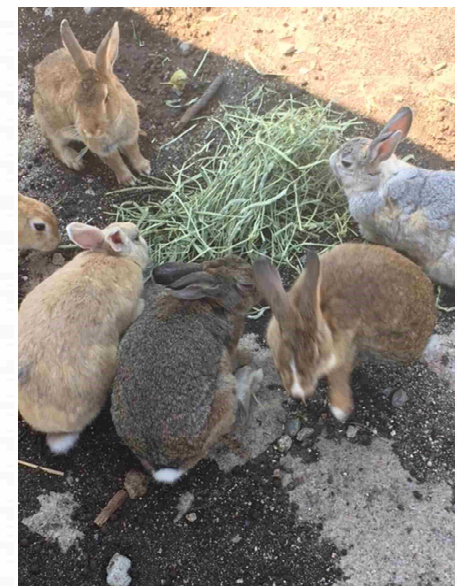
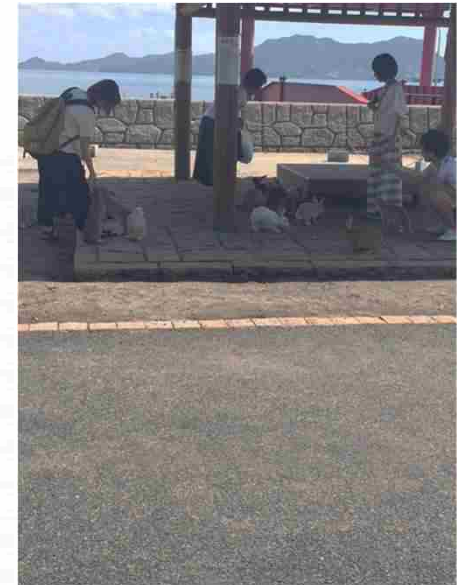
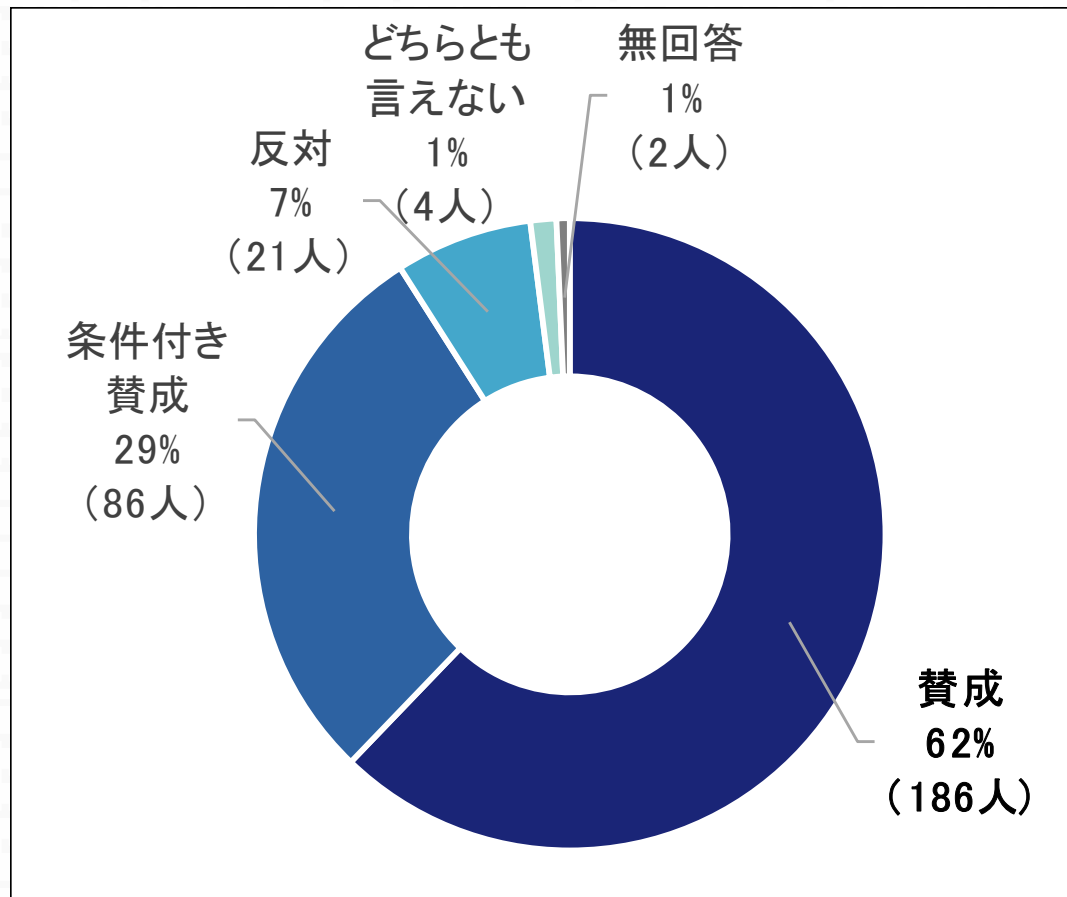
5. 来島者アンケート

ルール・マナーに関すること



5. 来島者アンケート

ウサギへのエサやりに関する意識



5. 来島者アンケート

ウサギへのエサやり

◆ 賛成の理由

賛成意見	回答者数
ウサギへのエサやりは楽しいため	80人
ウサギへのエサやりは大久野島の観光資源として重要であるため	79人
エサを与えないとウサギが死んでしまうため	34人
その他	2人
無回答	1人



◆ 条件付き賛成の理由

条件付き賛成	回答者数
ウサギの個体数や健康状態の把握をするなら良い	46人
エサの量を決めるなら良い	29人
エサやり場を決めるなら良い	9人
その他	8人

◆ 反対の理由

反対意見	回答者数
放置されたウサギのエサが不衛生であるため	12人
動物にむやみにエサを与えるのは良くないと思うため	6人
ウサギの数が増えすぎているため	5人
その他	0人